

経験者に学ぶ! LLMを育てるワザ3選

ご購入はこちら

小野 祐作, 藤本 実緒

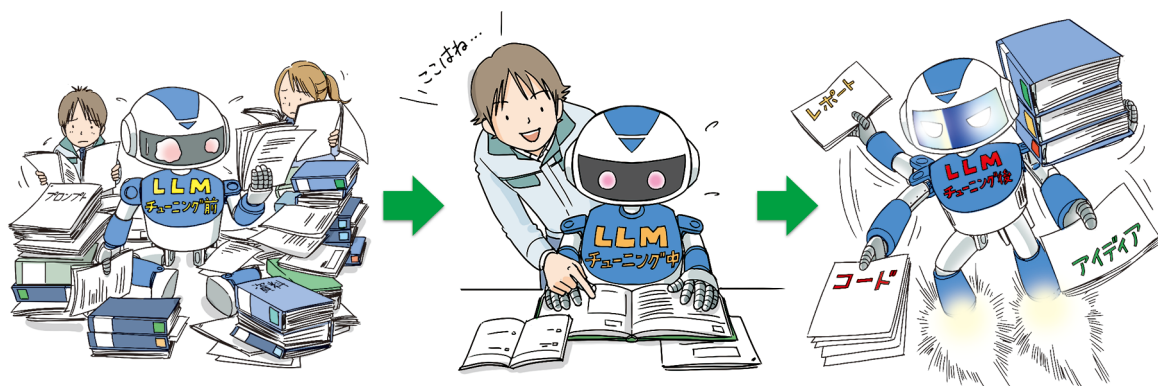


図1 LLMは育てると力強い味方になる

筆者は情報系のエンジニアです。まだLLM (Large Language Model : 大規模言語モデル) が広まる前、筆者は、分厚い紙の資料を抱えて徹夜で読み込み、翌日は眠気をこらえて別の会議へ向かう…そんな日々を過ごしていました。あれはあれで糧にはなりましたが、もっと効率良く学べる方法があればよいのにと何度も思ったものです。

そんな中でLLMに出会いました。試しに会議用の資料をまとめさせてみたら、徹夜作業レベルの要約が数分で形になりました。その瞬間、これは本当に現場を変える力があると実感しました。それ以来、企画書のたたき台や調査の整理、アイデア出しなど、仕事のさまざまな場面でLLMを活用しています。

LLMの便利さを知るだけでなく、もう一歩踏み込んで、どう使うかが分かると、その価値は一気に広がります。本稿では、LLMは、仕事を加速させる力になりうることを示すべく、専門用語をできるだけ使わずに、LLMとは何かから、LLMは育てて使うものであること(図1)、そして、育てるワザ(RAG, プロンプト設計, ファインチューニング)の重要性を説明します。

ざっくり理解するLLMのポイント

● LLMがやっていること

LLM (大規模言語モデル) が文章を生成する過程は、大きく3つのステップで成り立っています。

- ①データをため込む…インターネットの記事や書籍、コード、論文など膨大なテキストを集めます
- ②学習する…集めたテキストを元に、この文脈では次にどんな言葉が来る確率が高いかをひたすら覚えていきます。ここで使われるのがニューラル・ネットワークという仕組みです。脳のクセを真似た計算方法で、文章のパターンを統計的に身につけていきます
- ③生成する…入力された文章をもとに、学習で得た確率を使って次の言葉を予測し、文章を組み立てて返します

● LLMの仕組み…次に続く言葉の確率を選択し続けるマシン

LLMがやっていることはシンプルで、大量の文章をため込み、次に来やすい言葉の確率を計算しているだけです(実際には複雑で膨大な処理、計算をしている)。例えば、有名なフレーズの場合、次に現れる言